

鋼材鋼管の戦時規格に就て	絹川武良司	11	金屬材料	67
大東亞資源と原料規格の再検討	武井 武	16	電氣學會雜誌 第 63 卷 第 3 册 第 656 號 昭和 18 年 3 月	
戦時規格と鋼管	藤井 鐵造	17	和田, 中江: 珪素鋼板の磁歪に就いて	202
金屬資源の不足と戦時特殊鋼対策	渡邊 三郎	29	電氣化學 第 11 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
稀有金屬の不足と高速度鋼	正木 康作	32	耐アルカリ鑄鐵に関する研究 (第 1 報)	
鍛造業の原價計算の爲に	大浦 威	37	武井武, 向正夫, 吉田正次, 小林正治	1
鑛産増強と勞務者の規律訓練	松原 寛	55	液體の構造と諸性質 (II)	向 坊 隆 21
工業國策 第 6 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月鑛産増強			電氣化學 第 11 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
と勞務者の養成	村西 辰雄	59	金屬の電氣傳導理論 (II)	河合 紀雄 26
造船協會雜誌 第 250 號 昭和 18 年 1 月			低品位クロム鋼石冶金に関する懇談會	33
薄肉曲板の挫屈に就て		21	日本鑛業會誌 第 56 卷 第 695 號 昭和 18 年 3 月	
Proceedings of the Imperial Academy, February, 1943.			佛印鑛業情勢	中川 維則 97
Vol, XIX No. 2.			三川坑開鑿に就いて(日本鑛業會熊本大會に於ける講演)	
T. Kobayashi, I. Yosimura, Y. Iwaya and T. Hukasawa:			川上 龜郎 106	
Geologic Structure of the Western Part of the Limestone			接解角と浮遊選鑛との關係(II)	岡田丈五郎 113
Plateau in South Kogen-do. Brief Notes on the Geologic			米國鑛山局の事業概要	130
History of the Yokusen Orogeucic Zone, IV.		89	北海道日高國幌滿鑛山産コバルト鑛物	131
旅順工科大学紀要 第 15 卷 第 4 號 昭和 17 年			日本機械學會誌 第 46 卷 第 312 號 昭和 18 年 3 月	
安東省鳳城縣林家臺鑛山の地質及び鑛床	藤本 龍彦	1	撓壁に設けた側室内の渦の平衡	152
全ハガネ商聯盟會報 第 5 卷 第 2 號			摩擦ポンプの抗力を流路の實驗力から求める算式	183
昭和 18 年 2 月			日本機械學會誌 第 46 卷 第 372 號 昭和 18 年 3 月	
鐵鋼統制會の機構改革		18	質量力の作用する 2 次元問題と平板曲げ問題の相似性	156
日本化學總覽 第 2 集 第 17 卷 第 1 號 昭和 18 年 1 月治			高速ターゼル機關の損失馬力	157
金. 金相. 學金屬加工		104	燃燒ガスの比熱及び全熱量	158
滿洲及技術 紀元 2603 年 3 月號 昭和 18 年 3 月			調査彙報 第 2 卷 第 4 號 (通卷第 28 號) 康徳 9 年 10 月號	
札來諾爾褐炭と硬化炭工業	森川清, 阿部良之助	431	熱處理工場の自然換氣排煙に関する模型實驗	135
石灰石及苦灰石の利用に就いて(承前)	山崎 長七	440	厚板及中板の壓延	153
空氣選炭に就て(承前)	岩田 正五	450	高爐裝入物計算法	175
機械と材料 第 79 卷 第 957 號 昭和 18 年 3 月 12 日			大阪商工會議所月報 第 430 號 昭和 18 年 3 月號	
火力發電設備近時の傾向	今井恒三郎	122	工程管理	岩本 又藏 21
		164	作業改善	吉田 眞三 42
工業化學雜誌 第 46 編 第 2 册 第 540 號 昭和 18 年 2 月			生産技術 第 29 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月生産増強	
アルミナ坩堝及び皿に関する試験報告		202	と工場審察の實際	竹谷 勢一 10
機械技術 第 31 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月			金屬理論の發展 (25)	野呂 道夫 22
空氣液化器から大量酸素製造装置まで	須貝高麗夫	123	鑄物の缺陷とその除去法の一端に就て	28
勞力節約機械(二十八)	小林 潔臣	127	日立評論 第 26 卷 第 3 號 昭和 18 年 3 月	
切削及びドリル作業と潤滑劑(三)	佐藤 安正	135	特殊鋼の燒入性に就て	芥川武, 原田健重郎 160
大日本鑛業協會雜誌 第 51 集 第 603 號 昭和 18 年 3 月			東芝研究時報 第 18 卷 第 3 號	
鋼飯に對する珪瑯の融着に就て (第 1 報)	入江辰雄, 澤井郁太郎	154	亞鉛鍍金層の厚さ測定に関する一提案	高橋 樟彦 149
動力 別册 65 昭和 18 年 2 月			色の研究 (第 10 報)	東堯, 梅川梅 163
炭粉ターゼル機關		1	耐火材料 第 7 卷 (二) 38 昭和 17 年 5 月	
動力 82 昭和 18 年 1 月			珪石煉瓦の配合粒度に就て(第 3 報)	
高壓容器熔接部の X 線検査	黒川 常夫	38	高良義郎, 荒木寛美, 高島桂	73
小倉發電所微粉炭機連絡管に就て	吉井嘉市, 中西 孝	92	フォルステライト耐火物の研究(第 1 報)	森 泉 89
殖産調査月報 第 58 號 昭和 18 年 3 月			各種のガス中に於ける加熱より加熱よりカオリンに含有	
鑛業		39	されてゐる Al ₂ O ₃ の溶解性に就て	橋本 忠 譯 107
企 畫 第 5 卷 第 5.6.7.8 號 昭和 17 年自 5 月至 8 月戦			1940 年に於ける耐火物の進歩	池ノ上典譯 122
時に於けるドイツの石炭經濟		95	熔鑛爐用耐火物に就て	兒玉勝三譯 128
東芝研究時報 第 18 卷 第 1 號			業 界 雜 報	
光源及び照明		54	○昭和 18, 19 年の生産を増強すると共に恒久的對策も樹てると岸	
			商相が下院で言明した 京日 0223.	
			○増産のため内地熔鑛爐を華北に移し屑鐵を強力に回収する. 又産	

- 業別、品目別、工場別に基準人数を確立する爲調査中貴族院豫算總會、岸商相、小泉厚相 東亞 0223。
- 重點生産のため第3階級の鑄鋼業 52社を地域別に10社に整理し4月末には完了する——第1階級昭和16年度1000t以上第2,3階級同年度1000t以下 讀報 0318。
- 耐火煉瓦の製造は中工場は専門化し検定試験を擴充し優秀なものは残すやうにせよ 青木均一 日産 0327。
- 營團保有の特殊鋼は販賣会社に賣渡す 日産 0324。
- 京都では特殊鋼の配給機構整備のため12店を2店に整理した 経産 0328。
- 小型熔鑄爐資材は鐵鋼販經由で配給される事になった 京日 0306。
- 愛知では特殊鋼特約店を配給統制を強化確保する爲に5店に整理した 中日 0323。
- 鑄鋼統制規則が制定された22日公布7月から施行 中日 0321 大朝 0321。
- 朝鮮鐵鋼統制會では内地昨年12月規則改正に順應鐵鋼統制規則を改正した 京日 0316。
- 統制一元化のため特殊鋼協會は鐵鋼統制會へ吸収された 讀報 0317 東京 3017, 西日 0318, 高知 0317, 哈爾 0320, 釜日 0323, 仙河 0317, 大朝 0326。
- 統制會特殊部長が定つた 鐵經 0402。
- 統制強化のため上海工業組合を改組した 上大 0314。
- 滿蒙 18年度事業豫算：鐵石炭 3.64億圓 非鐵金屬 6500萬圓 機械 4200萬圓 東朝 0325。
- 内地資本により滿洲の鐵石炭を増産する 大毎 0326。
- 阜新、鶴岡、西安、北票の4炭坑に内地資本を入れやうとしてゐる 東朝 0325。
- 四大重點産業に協力會が出来た 東朝 0325。
- 鑄業評價委員會が出来た - 日産 0327, 東朝 0327。
- 新銑1t當りのコース使用量が定つた 日産 0324。
- 防空等の緊急工事以外鐵鋼工作物は禁止された 大朝 0401。
- 増産のため富鑄裝入率を増したが更に酸素吹込、酸性操業、選鑄設備の擴充をすと政府が定めた。滿日 0221。
- 港灣行政を地方長官が綜合調整することになった 日産 0325。
- 鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機、主要食糧に知事に指示権が出来た 東朝 0328。
- 酸素増産委員會を作らうとしてゐる 日産 0327。
- 特許發明等實施令が公布された 大毎 0323。
- 特殊鋼の配給手数料が定つた特鋼販 2%, 殊特特約店 6%, 一般 8% 日産 0325。
- 建設事務一元化のためと購入、指導監督、設計調査のための鐵鋼工務會社が出来た 滿日 0213。
- 高専に製鐵會社が出来た6月頃操業開始 中日 0327, 臺日 0317。
- 滿洲の鋸材は3割値上げになった 大毎 0401。
- 朝鮮价川の鐵鑄石を滿洲に輸出する 京日 0323。
- 龍烟の製鐵用には大青山炭をあてる 哈爾 0222。
- 日本鋼管では特殊鋼の大工場を作る 日産 0325。
- 朝鮮の小型熔鑄爐は國家機關が資金、資材を供給してゐる 京日 0306。
- 兼二浦の小型熔鑄爐は30日に火入式を舉行する 京日 0325。
- 鐵鋼統制會朝鮮支部では小型爐の建設に全力を注いでゐる 釜日 0305, 京日 0304。
- 直径88mm高さ51mm日産3tの豆熔鑄爐を靜岡縣靜岡鑄造所稻岡敏大氏が作つた 東朝 0526。
- 昭和製鋼所の新設大型熔鑄爐は年内に操業開始の見込 滿日 0322。
- 鐵鋼用250t容量の電気爐がドイツに出来る 日産 0324, 釜日 0326。
- 日本人の體格に合つた横型鑄岩機III40型を日立製作所で作つた 日産 0324。
- 八幡製鐵所では3ヶ月間に新記録が続出した 大朝 0327, 東京 0327。
- 17年度下半期の出炭目標は突破した 東朝 0327。
- 工場の節電が豊水のため緩和された 大毎 0323。
- セメント統制會では石灰石の統制案を作つてゐる 日産 0325。
- 東京の工場は14h制となつた 日産 0326。
- 鑄山の健康管理を實施する 日産 0327。
- カーネギー・イリノイ製鋼會社エドガー・トムソン工場で2600名の労働者が罷業を始めた 東京 0409。
- 秋田、新潟兩鑿井技術養成所を秋田、新潟鑄山學校と改稱人員を倍加した 日産 0324。
- 八幡製鐵所で同所の滯荷鋼材の處理につき協議した 關日 0229。
- 東鐵局は鑄業報國強調週間を開く 日産 0325。
- トム型15t積を17t積に改造した 日産 0325。
- 鐵道省は輸送力増強のため總動員法第25條による試験命令を出した 東朝 0325。
- 石炭輸送のため超大型機關車を作る 日産 0324。
- 鐵道省では重要鑄石類の運賃割引率を改正した 東京 0323。
- 大日本産業報國會主催第2會技能鑄鍊大會鑄造部鑄鍊は24日埼玉縣池貝鐵工所で行はれた 日産 0325。
- 金屬回收本部長が定り官制も定つた 東朝 0325, 大毎 0324。
- 鋼鐵在庫商品は重要物資管理營團が相當高價に買入れてゐるが、成績不良ならば強權を發動する特免品も4月8日以後取引禁止 北海 0319。
- 金屬回收：6大都市は昇降機、街路燈を取る。秋田縣では秋田市が第一位、京城では金屬の献納品が6000點に上つた。熊本縣は成績良好、人吉市は豫想量を遙に突破した。下關市では運動を開始した。全鮮に鋼鐵回收運動を行ふ。蒙麗日本人興亞協力會では鐵鋼の回收を開始した。秋魁 0427, 京日 0418, 西日 0311, 0226, 鹿日 0304, 蒙新 0221, 釜日 0305, 關日 0225。
- 金屬回收は4年前企畫院で資源回收委員會が設けられてゐた 東京 0325。
- 今年度金屬非常回收が行はれる 北海 0327。
- 統制會も鐵鋼回收運動を行つた 大朝 0326。
- 17年度は豫想の150%を回收した 鹿日 0326。
- 南方鑄鐵統制組合では南方の鑄鐵を内地に送らず現地で再生することになった 中日 0304。
- 乾溜亞炭：水分16.43, 揮發分47.04, 灰分0.92, 固定炭素32.56, カロリ3698, 日産 0326。
- 科學動員協會は25日大東亞會館で科學研究協力委員會第4回總會を開く 日産 0325。
- 日本學術振興會は鉄鋼精選の日本化、各製鐵所の熔鑄爐の實態調査のため、鐵鋼増産調査團を派遣した 仙河 0322, 北海 0318。